

第2－3期の活動計画の達成状況

重点分野1：大学拡充計画の推進	
<p>【基本方針:2】 さらなる医療・福祉の総合大学化と魅力づくり</p> <p>【基本方針:7】 教育の実践の場としての医療・福祉施設の展開</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新専攻分野の設置、収容定員の増加、大学院看護学分野の設置、助産師課程の検討と実現へのプロセスの推進 2. 新専攻分野の設置等に伴う施設の改修と教育環境等の改善に向けた取組 3. 附属医療施設の設立と体制整備に向けた取組 	
<p>責任者:水谷 史生 (法人事務局長)</p> <p>分担者:山口えり子 (企画広報課長)、宮崎和裕(管財課長)、清水計雄 (医療福祉事業担当課長)</p> <p>事務局:企画広報課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 新専攻分野の設置、収容定員の増加、大学院看護学分野の設置、助産師課程の検討と実現へのプロセスの推進	<p>①医用工学部医用情報工学科を改組し、医用工学部医療健康データサイエンス学科の設置申請を行う。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>令和3年4月、医用工学部医用情報工学科を改組し、医療健康データサイエンス学科を開設、1期生44名(入学定員40名)を迎えた。医療健康データサイエンスは医療健康科学の分野で蓄積された各種データをデータサイエンスの手法(AI, IOTなどの情報工学と統計学など)を適用し、様々な社会課題に対し新たな解決方法を研究開発し、新時代のリーダーを養成することを目指すものである。</p> <p>②医療健康データサイエンス学科の設置に伴い収容定員増加の申請を行う。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>令和2年6月、文部科学省へ収容定員増を行うための収容定員関係学則変更認可申請を行い、同年10月に認可を受け、令和3年4月より、医用工学部医療健康データサイエンス学科(入学定員40名)を開設する。これに伴い大学全体の収容定員は2,760名となる。</p> <p>③医療・福祉の総合大学として、学部、学科、専攻の更なる充実を図り、新設、再編、その他の課程等について検討する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>本学は、日本初の4年制医療系大学として開学以来「知性と人間性を兼ね備えた医療・福祉スペシャリスト」を多数輩出してきた。令和4年4月、白子キャンパスに三重県で初の救急救命士養成学科となる保健衛生学部救急救命学科を設置するための検討を行い、令</p>

	<p>和3年4月に文部科学省への学科設置申請に向けて準備を行っている。新設の救急救命学科では、思いやりの心と医療専門職としての倫理観、共感的態度を持って救急・災害医療現場で活躍できる救急救命士の養成を目指す</p> <p>④鈴鹿医療科学大学附属日本語学校の設置について検討し、準備を進める。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 大学院及び学部への留学生受け入れについては、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により社会経済や教育をはじめ、各方面に深刻な打撃をもたらした先行きは依然として不透明であるため本学としても状況を見ながら引き続き受け入れ体制等を検討し整えていく。</p>
<p>2. 新専攻分野の設置等に伴う施設の改修と教育環境等の改善に向けた取組</p>	<p>今年度の改修工事予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験実習棟の空調更新 ・A講義棟の空調改修 ・図書館空調更新 ・千代崎キャンパス受変電設備更新 ・講堂小ホール空調改修工事 <ul style="list-style-type: none"> ・白子キャンパス電話設備更新 <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験実習棟の空調更新＝2020年10月Ⅳ期工事完了 ・A講義棟の空調改修＝2021年1月Ⅲ期工事完了 ・図書館空調更新＝2021年3月Ⅰ期工事完了 ・千代崎キャンパス受変電設備更新＝2021年3月全期完了 ・講堂小ホール空調改修工事＝2020年9月完了 ・白子キャンパス電話設備更新＝2021年度実施
<p>3. 附属医療施設の設立と体制整備に向けた取組</p>	<p>①桜の森病院の取引先選定作業実施 ②新体制の鈴鹿市医師会および亀山医師会との緊密な連携強化 ③新体制となった三重県医師会との良好な関係性の構築 ④三重県内主要病院との関係性強化 ⑤看護師・看護補助者・薬剤師・事務職員採用の実施 ⑥2021年3月予定の竣工式・内覧会等の諸準備</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容</p> <p>①は2020年12月末までに全て選定実施済み。 ②については、2021年1月までに3回訪問し、病院建設の進捗状況、開院後の連携内容の確認などを行なった。 ③については、コロナ禍のため訪問による十分な関係性の構築までには至らなかった。 ④2020年9月～10月にかけて、学長、院長、看護師長らと北勢地区を中心に12病院を訪問。開院後の地域連携についての協力を要請し理解を得た。(いなべ総合病院、もりえい病院、桑名市総合医療センター、ヨナハ病院、みたき総合病院、市立四日市病院、四日市羽津医療センター、鈴鹿回生病院、鈴鹿中央総合病院、亀山市立医療センター、村瀬病院、三重大学附属病院)</p>

	<p>⑤2020年7月～9月にかけて採用試験を実施。全て予定人数を確保した。</p> <p>⑥2021年3月14日（日）「施設内見ご招待会」開催。 知事、市長などVIP約50名が参加。 3月20日～21日施設内見会を開催。2日間で375名の来場があった。</p>
--	---

第2－3期の活動計画の達成状況

重点分野2：大学広報の強化と入学者受入れの改善	
<p>【基本方針:2】 さらなる医療・福祉の総合大学化と魅力づくり</p> <p>【基本方針:3】 戦略的広報の展開</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <p>1. 広報活動の強化および大学ブランド力を向上させる情報発信</p> <p>2. アドミッション・ポリシー沿った学生確保の実現と入学に直結する広報活動の強化と入試制度の検証と改善</p>	
<p>責任者:森下 芳孝 (学生・社会貢献担当副学長)</p> <p>分担者:小山 尚樹 (入学課長)、山口えり子 (企画広報課長)</p> <p>事務局:入学課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 広報活動の強化および大学ブランド力を向上させる情報発信	<p>① 戦略的な大学広報</p> <p>「大学広報（企画広報課）と学生募集広報（入学課）、就職先広報（就職・キャリア支援課）との連携と双方の充実化を図る」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報内容について各組織（学部学科）や部署との相互連携を図る ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>昨年度はコロナ禍により、「進学相談会の中止」「オープンキャンパスの縮小」など高校生と接触する機会が減少した。そこで「受験生応援サイト イベント情報ページ」のリニューアルを行い、今までのコンテンツとは異なり、可能な限りオンライン上で対応できるようなコンテンツを強化した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特設：メール・オンライン入試相談」…メールでの入試相談 ・「動画で2021年度入試概要を解説！」…動画による入試に関する情報発信 ・「在学生の声を紹介するコンテンツ」を新規制作。在学生の声をまとめて掲載することで、受験生にも見やすくした。 ・「新入生応援サイト」は、入学が決定した学生向けに配信するサイトで、新入生向けの資料は主に郵送で配布していたが、コロナ禍による流動的な部分や、郵送後に決定した事項などホームページで最新情報を発信する事で、新入生が入学まで安心して過ごせるよう設置した。就職・キャリア支援課との連携についても、就職に関する情報等の提供を受け、在学生向けの「就職支援」「就職状況」などを分かりやすくホームページに掲載し、受験生への就職に関する情報提供を行った。 <p>②大学ブランド力アップのため、大学の取り組み・教育や研究の成果・地域貢献活動等の内容を積極的に発信する</p> <p>1. メディア戦略の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 随時、新聞・テレビ・ラジオなどのマスメディアを利用した

	<p>プレスリリースや広告・PR 活動を行う。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>令和2年度は、コロナ禍による学内外のイベント等の中止の影響を受け、例年のようなプレスリリースが困難となりリリース件数が減少したが、マスメディア（新聞、テレビ、ラジオ）を利用した広告展開や、県内報道機関への本学の教育・研究・社会貢献活動などに関する情報発信を随時行った。</p> <p>令和2年度は、広報活動の強化の一つとして、令和3年4月開設の「医用工学部 医療健康データサイエンス学科」および「附属桜の森病院」のサイトを新しく公開した。</p> <p>学部学科や学生の活動については、コロナ禍において随所に配慮した対策や、創意工夫した取り組みについての広報を行った。</p> <p>「大学における授業での感染症対策」については、4月8日からいち早く遠隔授業を開始し、6月1日からは対面授業での感染症対策を十分に行った上で、分散登校を始めハイブリッド型の授業を開始した。学生が新しい大学生活の行動ルールの下で学んでいる様子を伝えるべく、三重テレビ放送に取材を依頼し、7月8・9日に取材を受けた（理学療法学専攻／鍼灸サイエンス学科）。</p> <p>その他、Zoom を利活用したクラブ・サークル紹介の実施（8月12日取材）や、ピンクリボン活動部の検診啓発マスクケース寄付（2月17日取材）など、平時とは異なる学生の工夫した活動について積極的PR を行い、取材へと繋げた。</p> <p>学位授与式では、式典の模様を Zoom を利活用したライブ配信を行い、その設営準備と対応について積極に取り組んだ。また、そのノウハウを活かし、入学式の配信についても態勢を整え、実施することができた。感染症拡大防止の観点から平時とは異なる式典の実施について各媒体に広報し、情報番組や新聞紙面、Web News にて取り上げられた。</p> <p>・<u>プレスリリース：計 13 件</u> （取材：35 件、告知記事掲載：3 件） ※プレスリリース内容に対する取材と告知掲載件数</p> <p>・<u>マスメディア掲載状況：計 55 件</u> ・ （テレビ／ラジオ：20 件、新聞：34 件、雑誌他：1 件）</p> <p>・<u>新聞広告／マスメディア協賛：計 20 件</u> （テレビ／ラジオ：9 件、新聞：8 件、雑誌他：3 件）</p> <p>2. 大学ホームページの充実化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新着情報発信への迅速な対応 ・What's new の情報更新（随時） ・医療健康データサイエンス学科 特設サイト ・受験生応援サイトリニューアル ・大学附属桜の森病院 特設サイト ・研究振興課関連および社会連携研究センターのサイト統合検討 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>令和2年度は、広報活動の強化の一つとして、令和3年4月開設の「医用工学部 医療健康データサイエンス学科」および「附属桜の森</p>
--	--

	<p>病院」のサイトを新しく公開した。</p> <p>3. 公式 SNS の運用強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配信内容や頻度の見直し ・SNS の特性を活かした活用法考案（タイムラインの活用 等） ・友だち登録やフォローの促進方法を検討 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>[公式 SNS の運用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LINE 投稿件数：25 件（メッセージ 22 件、タイムライン 3 件） <p>友達追加数：1,435 名（2021.3.31 データ）※前年比 +610 名 ※ブロック数を含む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Instagram 投稿件数：26 件 <p>フォロワー数：462 名（2021.3.31 データ）※前年比 +167 名</p> <p>令和 2 年度は、Instagram の「IGTV」と「マガジン風コンテンツ」を利用した投稿と、LINE の「登録者限定コンテンツ」を活用した。「IGTV」とは Instagram に最長 60 分の動画を投稿できる機能で、これを利用して、既に YouTube に公開していた「鈴鹿医療科学大学なにに役立つ？医療健康データサイエンス学科」を Instagram に投稿し、「医療健康データサイエンス学科の特設サイト」に誘導したところ、Instagram に投稿した 10 月 28 日の特設サイトのアクセス数は、通常の 4～5 倍に上がった。</p> <p>以上の SNS の機能や手法を利用した取り組みにより、本学のホームページへの誘導を強化することができた。</p> <p>4. 紙媒体・動画などを利用した情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「SUMS News」の発行（継続） ・交通広告の利用（駅看板） ・大学紹介動画 内容追加の検討（新学科/附属病院等） ・広報ラックの有効的活用（継続的に刊行物や掲載紙を PR） <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年 4 回発行の広報誌「SUMS News」により、継続して本学の取り組み・教育や研究の成果・地域貢献活動の内容を積極的に発信した。 ・駅看板について、近鉄桑名駅のデザイン、掲出場所を変更した。 ・令和 3 年 4 月開設の「医用工学部 医療健康データサイエンス学科」および「附属桜の森病院」の動画内容の検討を行った。 ・広報ラックにおいて、学生や来客者へ本学の取り組みなどを継続的に PR した。 <p>③ 大学ポータルサイトへ継続的に参画する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学運営の現状に関する情報公開の充実 2. 積極的な更新 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>大学ポータルサイトは毎年 7 月に各学部、研究科、事務局各課へ内容確認と更新作業を依頼し常に最新の情報公開を行っている。</p>
--	---

<p>2. アドミッション・ポリシーに沿った学生確保の実現と入学に直結する広報活動の強化と入試制度の検証と改善</p>	<p>①高等学校との連携強化を継続する。</p> <p>1. 高校での進路ガイダンスや模擬授業の実施をこれまで以上に増やして行く。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 新型コロナウイルスの影響で、高校の休校による授業の遅れ等で、ガイダンスや模擬授業自体の中止が相次ぎ、2019年度の半数程度の実施となった。</p> <p>2. 高校1、2年生を対象としたキャリア教育への積極的に参加を進める。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 新型コロナウイルスの影響で、高校の休校による授業の遅れ等で、ガイダンスや模擬授業自体の中止が相次ぎ、2019年度の半数程度の実施となった。</p> <p>②医療系職能団体との連携を強化する。 各職能団体が主催する高校生向け行事への積極的参加を進める。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 新型コロナウイルスの影響で、イベントや対面開催は中止されたがオンライン等を活用して個別相談や模擬実習を行った。</p> <p>③2021年度入試に向け、入学者選抜方法の検証と改善を継続する。</p> <p>1. 総合型選抜入試（現AO入試）において、「学力評価」の導入と、一般選抜（現一般入試）の一部科目への「記述式問題」の導入及び一部入試方式において「調査書」を評価項目に加える方向で検討を進める。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 総合型選抜入試、一般選抜入試ともに、予定の改善（上記内容の導入と追加）が完了した。</p> <p>2. 学部学科ごとに各選抜区分の募集状況や入学者の学力等を把握し、適宜改善を進めていく。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 各選抜区分について、各学部・学科ごとに入学者の学力等と照らし合わせ、募集定員を調整している(例・3月実施の募集定員を学校推薦型選抜入試等へ移行させた)</p> <p>3. 高校別の志願、入学状況を把握し、広報活動と選抜方法へのフィードバックを進めていく。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 重点高校20校の学科別志願者・入学者の増減をは把握し、高校別指定校制推薦の基準の見直しを図った。</p> <p>4. 大学入学共通テスト（2021年度入試より導入）と高大接続改革に対応できる入試制度の改革を進める。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 大学入学共通テストを利用する方式の検討を継続して行くと同時に、高等学校との連携強化により、総合型選抜入試や学校推薦型選抜入試で本学が求める学生を選抜できる仕組み作りを継続している。</p>
---	---

	<p>④2021 年度入試に向け、特待生制度（奨学金制度含む）の検証と改善を継続する。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>早期の優秀な学生の確保をねらい、薬学部の指定校制推薦入試において、特待生の選考を実施した。今後、学校推薦型選抜入試（基礎テスト方式）においても、特待生の選考を実施する予定である。</p>
--	---

第2－3期の活動計画の達成状況

重点分野3：教育内容の充実	
<p>【基本方針:1】 教育の質の向上と到達度重視の教育、面倒見の良い教育サポート体制の確立</p> <p>【基本方針:2】 国家試験対応の教育を基盤としつつ、社会の求める高いレベルの医療人教育の実現</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の質的向上を目指す新しい仕組みの確立 2. 学生に合わせた到達度重視の教育を推進 3. 面倒見の良い教育、満足度の高い教育の実現に向けた取り組み 4. 学修サポートシステムの導入と活用 5. 国家試験や資格試験に対応し全員合格を目指す教育 6. 医療人底力教育の充実発展と多職種連携教育の推進 	
<p>責任者:片山直之(教務・教育改革担当副学長) / 鎮西康雄(前 教務・教育改革担当副学長)</p> <p>分担者:福田八寿絵(底力教育推進センター長)、出屋敷喜宏(FD推進委員長)、 松永ひとみ(教務課長)</p> <p>事務局:教務課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育の質的向上を目指す新しい仕組みの確立	<p>教育改革委員会、教務委員会、IR推進室、FD推進委員会、学科教育質保証委員会等の各組織が連携しながら、全学的な教育の改善とともに質の向上を図る。</p> <p>① 本学の理念や基本方針とそれらに対応した具体的施策の立案とその実行</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 教育改革委員会は、本学の教育全般にわたり、その基本的な方向性を定めるとともに、長期及び短期の教育実施に関わる具体的な改革を推進する。 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>修業年限内の卒業率の向上を目指し、それに対応すべく休・退学者数の減少を目標とする面倒見のよい教育である特別教育の流れを構築し、実行した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 教務委員会は、各学科との調整を図りながら、教育改革委員会の意向を具体化し、それらを遂行するための検討を進める。 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>教育改革委員会は特別教育の実施を学科へ依頼した。追・再試験のあり方については、教育改革委員会での検討を受けた学長判断により、本人の不注意による場合も追・再試験の受験が可能になる仕組みを構築し、2020年度から試行し、2021年度からは学生要覧に明示し、遂行する。</p> <p>② IR機能の充実とそれに基づく教育改革の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ IR推進室では、全学的なデータの分析を継続し、更に各学科にIR担当教員を置き、教育改革及び教育指導体制について具体化し、実行する。 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p>

	<p>上記達成状況の具体的内容 各学科に IR 担当教員を置き、全学の IR 推進室で扱う SAS システムを利用し、各学科の教育改革の現状把握やそれらを考慮したリアルタイムな対応を可能にし、教育質保証委員会で情報共有できるようにした。本年度はこの仕組みを活かした教育改革に対する取り組みを開始したところであり、今後 IR 推進室において、全学的な教育のデータの分析を基に各学科と連携し、改善案を推進していく。</p> <p>③ 教育の質を担保する体制の整備 ◆各学科の教育質保証委員会は、学力を担保しつつ留年・休学・退学を可能な限り減少させる「トコトンできるまで教育」を実現するための具体的な方策（特別教育）を実施する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 教育質保証委員会が、カリキュラム編成、授業担当者、授業管理の方法、シラバス整備などについて検証し、年度末には特別教育の実施状況を教育改革委員会へ報告するという仕組みを構築した。更に、不合格者に関する報告書の内容を確認し、次年度の教育改善について各学科へ提言することができた。</p> <p>④ FD 活動による教員意識の改革と授業改善の取り組み ◆研修会等を実施し、教員の教育技術（遠隔授業など新しい教育方法を含む）の向上を図る。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 令和2年9月1日にFD講演会、9月2日にLMS研究会を開催し、FDマニュアル(2019)を活用した授業改善の取り組み事例、授業評価高得点賞受賞者、各学科からLMSに特化した教育技術の事例などが発表された。これらをまとめたFDマニュアル(2021)を発行し、令和3年度新規採用専任教員を含め、全教員へ配布し、全教員の意識改革に努めた。 ◆FD推進委員会活動をホームページ等で公開する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 「授業評価アンケート等に関する実態調査」、「学生授業評価高得点賞受賞者講演会資料」、「大学コンソーシアム京都主催FDフォーラム報告書」を年度別にホームページに公開し、印刷物は図書館へ配架している。</p> <p>⑤ 教育実績や業務内容の情報公開 ◆教育実績に加え、教育内容の新しい取り組みや特色ある取り組みをホームページ及びその他の公開手段で発信する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 大学ホームページの「What's New」や鈴鹿医療科学大学シーズ集を公開し、印刷物も関係各位へ配布している。 ◆教育・教務に関わる講演会活動等について、他の大学・短大等に広報し、参加を促す。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 「高等教育コンソーシアムみえ」の組織を介して、他の大学等と連携し、講演会活動等を広報し、複数の大学の教職員がそれらの活</p>
--	---

	<p>動に参加している。2020年度は、講演会活動はZoomを利用して、開催された。</p> <p>◆学生の学修状況調査や意識調査の結果等に関する集計情報を公開する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 「学修成果に係る自己評価調査の集計結果」、「卒業生アンケート結果」について、大学ホームページで公表している。</p>
<p>2. 学生に合わせた到達度重視の教育を推進</p>	<p>学生の学修力に合わせた、学生にとってよく理解できる授業、身に付く授業を目指す。</p> <p>①「トコトンできるまで教育」</p> <p>◆各学科の教育質保証委員会は、クリッカーの使用または頻繁の小試験などによるリアルタイムでの学生の記憶度や理解度を反映した授業が行われているかを確認する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 SUMS-POの学修カルテ機能で修学度についての評価が確認でき、e-learningシステムを導入することによって、学生自身が身に付けた内容や達成度を確認できる環境を整備した。</p> <p>②「何を教えたかではなく、何を身に付けたか教育」</p> <p>◆学生参加型であるアクティブラーニング型授業を取り入れ、記憶に残り、身に付く授業を行う仕組みを作る。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記進捗状況の具体的内容 記憶に残り、身に付く授業を行う仕組みとして、定期試験後の16回目の授業は、試験解説と学生によるグループワークを取り入れる仕組みを構築した。今期は、Zoomの機能の一つであるブレイクアウトルームを活用し、コロナ禍であっても、学生参加型教育が実現できた。</p> <p>◆「身に付けた教育」を評価する仕組みを作る。特に到達度を重視した評価方法の整備を行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記進捗状況の具体的内容 SUMS-PO上で評価結果が閲覧できる仕組みを整備した。ルーブリック等の評価尺度の設定を80%以上の科目で実施することを目標としてきたが、コロナ禍の影響もあり、ルーブリック評価尺度の設定が困難であった。そこで、実験・実習を中心に、評価方法を整備した。令和3年度は仕組み作りと評価方法の工夫と整備を推進していく。</p>
<p>3. 面倒見の良い教育、満足度の高い教育の実現に向けた取り組み</p>	<p>他大学には真似のできないきめ細かな個を見つめる魅力ある教育を実現する。成績不振学生への手厚い個人指導と、より高いレベルの学力及び総合力を培う教育を施行し、学生の多様性に則した高い満足度が得られるバランスの取れた教育を実施する。</p> <p>① 基礎学力養成教育の充実</p> <p>◆学修サポートシステムを利用した基礎学力養成のためのリメディアル教育を学科ごとに、その専門性に合わせた実施方法と内容を構築する（教育質保証委員会）。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記進捗状況の具体的内容</p>

	<p>初年次には、プレイスメントテストを実施し、基礎学力が不足している学生を抽出し、専門教育に向けたリメディアル教育を実施した。</p> <p>各学科及び学年によって学習内容が異なる教育を実施するために、教育質保証委員会が、e-learningの活用を含め最善の教育カリキュラムを構築し、修業年限内卒業及び国家試験合格率の100%を目指した。</p> <p>令和2年度 全学平均（修業年限内卒業率）76.6%、 （国家試験合格率）89.5% （参考）令和元年度 全学平均（修業年限内卒業率）75.4% （国家試験合格率）93.6%</p> <p>② 成績不振学生の個別指導</p> <p>◆1年生早期（前期終了後）に各学科・専攻とIR推進室が協力して、成績不振学生を抽出し、個別指導する（教育質保証委員会）。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>各学科の教育質保証委員会が、進級できなかった学生や不合格者が多い科目に関する報告書を作成し、教育改革委員会が確認するという仕組みを構築した。留年者数が全学で昨年比24名減少し、第一歩を踏み出したと思われる。今後もこの報告書を活用しつつ、原級留置の要因の全学的な承認に基づいた進級等の判定ができる体制を構築していくこととした。</p> <p>③ 留年学生のサポート体制の構築</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記進捗状況の具体的内容</p> <p>特別留年学生に関して、2019年度は、21人中8人（38%）が卒業し、資格取得に至った。その成果に基づいて改善した結果、2020年度は、25人中13人（52%）の卒業となった。今後も引き続き、サポート体制を改善し、強化していく。</p> <p>④ 不合格科目及び留年を出さない教育に向けた取り組み</p> <p>◆各学科で新しい対策（留年ゼロ作戦V2）により不合格科目を減らし、留年学生を出さない方策を検討し、改善を図る（教育質保証委員会）。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記進捗状況の具体的内容</p> <p>教育質保証委員会は、各学科が本学の理念や基本方針に沿って、授業を行っているかを検証するために、成績未確定者リストを年5回確認した。不合格者が不合格に至った経緯を年度末に報告する過程で、授業担当教員及び担任教員が成績未確定者について議論する機会が増加し、早い段階での不合格学生についての情報を共有できるようになった。</p>
<p>4. 学修サポートシステムの導入と活用</p>	<p>新規に導入した学修支援システムを有効活用し、学生の自学自習を支援する。</p> <p>① 学修サポートシステムを利用した自学自習・演習の実現</p> <p>◆学修サポートシステムを活用した自学自習の仕組みを作り、全学的な活用を目指す。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記進捗状況の具体的内容</p> <p>FD推進委員会の下部組織としてLMS検討部会が設置され、全学的に学修サポートシステムの活用を促す仕組みが構築された。e-learningシステムの一つとしてlearningBoxを導入し、事例集な</p>

	<p>どの情報共有や、研修会を8回開催した。</p> <p>② 学修サポートシステムによるポートフォリオの活用方法を検討 ◆学修サポートシステムによるポートフォリオの活用方法を教育質保証委員会で構築する。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記進捗状況の具体的内容 学びと教育のプロセスを「みえる化」し、学修サポートシステムによるポートフォリオの活用方法を構築した。</p>
<p>5. 国家試験や資格試験に対応し全員合格を目指す教育</p>	<p>本学の使命の一つが医療人の育成であり、国家試験や資格試験に合格する教育が基本である。入学前、初年次教育、専門教育、最終学年にわたり資格試験を意識し、一貫した教育カリキュラムの構築を目指す。</p> <p>① 専門基礎科目・専門科目等の授業の中での取り組み。 ◆基礎科目や専門基礎科目と専門科目との繋がりを重視し、その関連性を低学年と高学年の授業の中で意識した授業を行う(教育質保証委員会)。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記進捗状況の具体的内容 それぞれの科目との繋がりについてシラバスへの明記を徹底したが、実際に意識した授業が行われているかの確認まで至っていない。教育質保証委員会による確認を計画している。</p> <p>◆すべての教員が国試問題に精通し、学生が授業の中で重要事項を理解し、記憶することを目指す授業を実践する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記進捗状況の具体的内容 シラバスに明記する仕組みを構築しているが、実際に授業が目指す形で実施されているかという確認作業の推進を計画中である。</p> <p>◆国試に必要な最低限の知識を記憶させる授業を行う。試験では、学生の理解度や記憶度が確認できる問題を出題する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記進捗状況の具体的内容 正解するまで繰り返し学習できるソフトである learningBoxを導入し、それらを活用するために、LMS 検討部会で研修会を実施するなど、その活用を促進してきたが、学生の理解度や記憶度を確かめる仕組みは構築準備中である。</p>
<p>6. 医療人底力教育の充実発展と多職種連携教育の推進</p>	<p>初年次教育としてのこれまでの経験に基づき、更に充実発展させる。また、上級生向け実践的応用編である「多職種連携教育」を更に充実することにより、社会の求める高いレベルの医療人教育を実現する。</p> <p>① 高いレベルの学力と総合力を培うための教育 ◆現在実施している事例と実践で学ぶ多職種連携教育(チーム医療教育)をより質の高い内容に改善し、より多くの学生が履修できる体制を整備する。これにより医療人としての総合力を涵養する教育の推進を図る。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記進捗状況の具体的内容 2020年度は実習先施設を7から18ヵ所に拡充し、より多くの学生が履修できる体制を整備した。更に、履修学生数については、2018年度36人、2019年度42人、2020年度46人となり増加した。「医療人底力実践(応用)」は、感染症の予防を徹底する中、学外の実</p>

	<p>習施設等での実習を無事に終え、成果発表会は遠隔ではあるものの開催し、学生及び関係教員、関係実習施設等から感動、感謝、高度な教育達成度の思いが寄せられる内容に仕上がっている。また、2017年度より始まった三重大学医学部との共同授業「慢性疼痛チーム医療養成プログラム」は、カリキュラム改訂に伴い、全学科対象科目とし、2020年度は、1年生の座学217名、2年生のワークショップ42名が本学から受講した。このプログラムは、2020年度で国からの補助金支援は終了となるが、本学では通算73名の修了者を出し、今後も三重大学と協力し、継続することを計画している。2020年度は遠隔でワークショップを開催したが、質の高い教育を担保できたという結果が学生アンケートからも実証され、本教育プログラムは、2020年度教育改善提案として学長賞を受賞した。</p> <p>② 医療人底力教育のこれまでの実績を広報する仕組みを作る。</p> <p>◆医療人底力教育のこれまでの実績やリアルタイムな情報を広報する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記進捗状況の具体的内容</p> <p>リアルタイムな情報発信には至っていないが、大学の案内ビデオ作成やポートレートを更新し、教科書を改訂した。全学教職員に学生の成長や初年次底力教育の学習成果の理解を深めるため、アカデミックフェアを実施した。実績については、本学ホームページ上の医療人底力教育に特化したサイトの更改や SUMSNews に掲載するなど広報活動に努めた。</p>
--	--

第2－3期の活動計画の達成状況

重点分野4：学生支援の強化	
<p>【基本方針:1】 満足度の高い教育の推進</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <p>1. 国家試験、資格試験の合格率100%を目指したより効果的な国試対策指導方法の具体化および実施 2. 就職率100%を目指し、求人・求職側ともに納得できる就職の実現に向けた支援体制構築の取り組み 3. 学生の満足度向上に繋がる学生生活支援体制の構築 4. 大学行事、学友会活動、ボランティア活動への積極的な参加の促進と自主的に活動する学生の育成</p>	
<p>責任者:森下 芳孝 (学生・社会貢献担当副学長) 分担者:岩崎泰正 (健康管理センター長)、大井一弥 (国家試験対策WG副委員長)、綾野眞理 (学生相談室長)、大塚紀寿 (就職・キャリア支援課長)、勝田能成 (学生課長)、田中宏治 (白子学生・就職課長) 事務局:学生課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 国家試験、資格試験の合格率100%を目指したより効果的な国試対策指導方法の具体化および実施。	<p>①国家試験WGにて各学科、専攻における国家試験対策を情報共有することによって、各学科になかった新しい気づき生まれ、新規性のある教育方法にトライすることが可能になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学科が受験する国家試験の特性を理解したうえで、情報共有を図る。(7月21日WG開催予定) ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 7月21日に第1回国家試験対策WGを開催して、各学科より前年度の結果報告と国家試験対策指導において苦勞したこと、また新型コロナウイルス感染症対策についても報告発表が行われた。概ね前年同様の試験結果となり、今年度も良い報告ができるよう各学科で工夫している取り組みについて情報共有を行った。 国家試験に向けたモチベーションの維持・向上の方策について各学科・専攻が構築してきた指導方法をWGで発表し、従来の指導と比較検討を行う。(7月21日WG開催予定) ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 7月21日に第1回国家試験対策WGを開催して、学生の国家試験に向けたモチベーションの維持について報告発表が行われた。個別面談を増やすなどメンタルヘルスケアを行いながら、成績下位学生に対して学習進捗管理を行い、eラーニングの学習システムを活用しながら指導が効果的あることなど情報共有を行った。 現時点での各学科・専攻の国家試験対策の達成状況を共有し、今までの模擬試験の成績等を考慮したうえで、受験者の絞り込みの基準を確認し、受験予定者数の見込みを公表する。(12月上旬開催予定) ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 12月22日に第2回国家試験対策WGを開催して、国家試験対策の達成状況の報告発表を行った。新型コロナウイルス感染症対策で

	<p>模擬試験の開始時期が遅れた学科もあったが、大幅な学習の遅れとならずに概ね順調に学習進捗管理ができていることを共有。1月から国家試験日までは、国家試験や卒業試験を受けられない学生を出さないために、対面での指導は登校日を制限して、十分に新型コロナウイルス感染症対策をして実施することとした。</p>
<p>2. 就職率 100%を目指し、求人・求職側ともに納得できる就職の実現に向けた支援体制構築の取り組み。</p>	<p>①職業選択において、広い視野を持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 食に関して、幅広い就職先が考えられる管理栄養学専攻の学生や資格試験を必要とせず就職活動を行う学生に対して、3年時3月までに学内での業界説明会を開催や会社見学へ引率する。 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>外部講師を招いての講座や、学外への会社見学などについては、新型コロナウイルス感染症拡大のため、本学教員による講義に内容を変更して実施した。</p> <p>②就職試験対策の充実。</p> <ul style="list-style-type: none"> 採用選考において、「一般常識試験」「SPI 試験」「論作文試験」等の筆記試験が揮わず、合格に至らない場合が少なからずある。 <p>具体的な対策として、3年時9月～12月にSPI対策講座、一般常識試験対策講座、11月に小論文対策講座を実施すると共に、個別相談も実施する。</p> <p>■達成(100%)□ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大のため、外部講師による講座からオンライン等による動画配信や個別対応へ変更し支援を実施した。個別対応では学生のニーズや満足度が高いため、今後もできる限り対応していく方針。</p> <p>③薬学部5年次生を対象とした学内合同企業説明会の実施</p> <p>例年3月に実施してきたが対面での実施が困難であれば、オンライン等を利用して情報発信を行う。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での実施が困難であったため2021年3月7日(日)にオンライン ライブ方式で開催し、病院19法人、薬局24社、製薬メーカー4社、自治体3県、薬剤師会2社の52法人が参加した。学生の参加率は57.3%となった。1法人につき1回の説明時間となったため、学生の企業研究として活用できるように説明会の様子をアーカイブ化し、6月末まで視聴ができるようにした。</p> <p>④薬学部1～6年次生を対象とした学内個別企業説明会の実施</p> <p>病院、薬局、製薬メーカーなど、薬剤師を採用している企業を対象に、申込制で実施する。新型コロナウイルス感染症を考慮し、対面式での実施以外の方法も検討する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>学内合同企業説明会終了後の2021年3月8日(月)～3月31日(水)に期間限定でオンライン説明会として再開をした。病院3法人、薬局11社の申し込みがあった。参加者は各社とも数名ではあったが、マンツーマンに近い形で説明を受けることができ、両者にとって内容の濃い説明会となった。</p> <p>⑤薬学部 低学年向けキャリアガイダンスの実施</p> <p>薬剤師を取り巻く社会情勢が大きく変わろうとしている中、これま</p>

	<p>でのような売り手市場の中での就職活動は通用しなくなることが想定されるため、早い段階で「薬剤師」を意識して学生生活を送ることを目的とする。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>3年次生：「業界研究講座」を動画配信で開講した。何を目標に勉強しているのかをイメージして意識付け、勉強へのモチベーションアップに繋げることを目的とする講座とした。</p> <p>4年次生：「就職活動スタートガイダンス」を動画配信で開講した。薬剤師として活躍するために、今後どのような人生を送るのが将来を考え始めるきっかけとなるように気付きを持つための講座とした。</p> <p>⑥看護学部1～3年次生を対象としたマナー講座の実施 低学年から社会人となっても必要とされる医療人としてのマナーを身に付けることを意識付け、実習において実践できるようにする。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>1年次生：「看護体験前のマナー講座」を対面で開講し、体験実習だけでなく就職活動や医療従事者としても必要とされるマナーを実践形式で学んだ。</p> <p>2年次生：「基礎看護学実習のためのマナー講座」を動画配信で開講した。1年生で学んだマナーの確認と、看護師採用の現状を伝え就職活動に向けての準備期間として今後の学校生活の過ごし方について学んだ。</p> <p>3年次生：「実習と就職活動のマナー」を動画配信で開講した。就職活動を目前に控え、実習だけでなく就職活動でも実践できるように基本的なマナーを再度確認した。</p>
<p>3-1. 学生生活支援体制の強化- 学生の要望や状況を常に把握し 対応する体制の強化</p>	<p>①学生アンケート等を継続的に実施し、学生から汲み上げた意見・要望を、実際の学生支援へと反映させていくための取り組みを強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在学生アンケートを実施する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 オンラインによる学生総会の開催に合わせ、全学生を対象にアンケート調査を行い、結果に基づき大学への要望等を取りまとめ、それぞれの対応について関係各課と協議を行った。 ・卒業生アンケートを実施する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 本学ホームページ内で卒業生を対象にアンケート調査を行い、その結果をホームページ上で公開した。 ・学友会組織との意見交換会を実施する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 12/24 学友会顧問(副学長)・学生課と学友会執行部員による意見交換会を実施した。 ・学長と学生との意見交換会を実施する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

	<p>前期はオンラインを中心に、後期も対面とオンラインによる授業が行われていたこともあり、学生を集めることが難しく、また、登校に伴う移動のリスク及び、学生を1カ所に集めることに危険を感じたため、これまでと同様の形態による意見交換会の実施を取りやめた。学長へは、在学生を対象にオンラインで行った「大学への要望等に関するアンケート」の結果を取りまとめ、その対応について学長・副学長ミーティングでご検討いただくなどの機会に、学生の声の把握を一部行っていただけたものと考えている。</p>
<p>3-2. 学生生活支援体制の強化-健康管理支援体制の整備（からだ・こころ）</p>	<p>①<健康管理センター></p> <p>1) 健康診断の実施（からだ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所見のある学生への保健指導および再検査の実施 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2020年度は学生健康診断の時期を延期し、8月末～10月末にかけての実施（視力と聴力は中止）となったが、受診率は例年同様で、保健指導も例年通り実施することができた。 ・必要な際には他医療機関への紹介を行う ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 健康管理センターへ来室し、他医療機関への紹介が必要なすべての学生に対して、担当医師より「紹介状」を作成し、それを持って医療機関を受診してもらうことができた。 <p>2) 学生相談室との連携（こころ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生へのメンタルチェック UPI（精神的健康度調査）の実施 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学生健康診断を受診した、すべての学生にUPI調査票を実施し、回収率は100%であった（学生健康診断未受診学生へは、未実施）。 ※学生健康診断受診率：97.5% ・心に問題を抱えている学生の早期発見と対応 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 UPI調査の採点で、心に問題を抱えている学生を早期発見し、学生相談室と連携し、面談を行った。 <p><健康管理センター・白子保健室></p> <p>病気やケガの応急処置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急の際の迅速かつ適切な対応の実施 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 病気やケガが発生した際、自ら来室できない学生がいた場合は、大学事務局と連携し車椅子または担架で健康管理センターへ搬送し、必要に応じて担当医師による診察、他医療機関への搬送や救急車要請等、迅速かつ適切な対応を行った。 <p>②学生相談体制の向上（前年度の分析結果をもとに行う）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生のニーズに対応するため、相談時間、開室日、相談方法などを再検討する。

	<p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>学生相談室の開室日数は据え置きであるが、コロナ禍で学生の登校が困難な中、従来の対面による相談に加えて、遠隔（メール，電話，zoom）による相談体制を整え対応した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 守秘義務に配慮しつつ、必要に応じた連携を行う。 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>必要に応じて、健康管理センター、白子保健室、学生課・教務課・各学科の教員と情報共有やコンサルテーションを行った。</p> ・ 定期的にこころの健康に関する情報を発信する。 <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>サムスニュースの学生相談室欄に情報を掲載した。SUMS-POの掲示機能を活用して、主に学生に向けて、ミニ「そよ風便り」を複数回発信したが、活動内容の紹介の目的で教職員宛にも発信した。</p>
<p>3-3. 学生生活支援体制の強化-福利厚生と基本的な生活指導</p>	<p>①福利厚生施設、学内環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつ運動、交通指導（大学周辺、通学路、駐車場、駐輪場） <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>新型コロナウイルスの影響により年間を通じて出校する学生数が減少したため「あいさつ運動」は停止し、最寄駅や通学路における交通指導及び、学内メールシステム（sums-po）による交通事故防止に向けた注意喚起の配信のほか、地元自動車学校の協力を得てオンラインによる交通安全講習会を実施した。</p> ・ 学生食堂の更なる充実に向けての取組みを行う。 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>学生食堂に対する在学生の意見を集約した上で、学友会顧問（副学長）・学生課と食堂委託業者との意見交換会を実施した。</p> <p>②学生の栄養指導による健康管理への介入の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康診断結果からやせ又は肥満に該当する学生の食生活に関する栄養相談及び指導 <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>新型コロナの影響による登校自粛や感染リスクの予防を考慮し遅れている。その対応として、さまざまな栄養素のバランスを適正に摂取できる情報提供を行う。</p> ・ 上記に該当するやせ又は肥満の学生への定期的な栄養相談及び指導の実施 <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>新型コロナの影響による登校自粛や感染リスクの予防を考慮し遅れている。その対応として、さまざまな栄養素のバランスを適正に摂取できる情報提供を行う。</p> ・ 定期的な栄養相談及び指導について有効な方法の検討 <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p>

	<p>新型コロナの影響により実施が困難な部分があるが、実施可能な範囲内で調整していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生生活に関連して食事を含む食生活についての情報提供の実施 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) <p>上記達成状況の具体的内容 新型コロナの影響により情報提供が困難な部分があり遅れている。実施可能な範囲内で行う。</p>
<p>4. 課外・社会活動の自主的参加への支援</p>	<p>①学友会、クラブ・サークルの活動を支援。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学友会組織の継続的支援を行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) <p>上記達成状況の具体的内容 新型コロナウイルスの影響により、学友会活動も自粛 又は、制限付きでの活動となったが、コロナ禍で何ができるのかを検討し「オンラインよるクラブ紹介」や「ハイフレックス（実施会場からの生配信）よる碧鈴祭（大学祭）を開催するなど、年間を通して支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ・サークル活動の継続的支援を行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) <p>上記達成状況の具体的内容 クラブ・サークル運営委員会（委員会役員 及び、各クラブ・サークルの代表・学生課）を年4回開催し、都度発生する問題点や課題に対する協議を行う中で、より良いクラブ・サークルの運営支援・協力を行った。また、「課外活動再開における新型コロナウイルス感染症予防対策ガイドライン」を作成し、コロナ禍におけるクラブ・サークル活動の支援を行った。</p> <p>②サムスポイント制度の周知 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 コロナ禍で実施した大学祭等の学友会行事に関わった学生や、オンラインによるクラブ活動でマスクケースを作成し鈴鹿市等に寄付を行った学生団体・新たに地域の消防団に加入した学生等からのサムスポイントの申請もあり、サムスポイントの趣旨や制度は概ね伝わっていることが確認できた。なお、規程に基づき高得点者の表彰も行ったことで、サムスポイント取得にかかる意識の醸成に寄与することができた。</p> <p>③ボランティア活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生によるボランティア活動体験についての広報をサポートする <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) <p>上記達成状況の具体的内容 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、課外活動等は自粛要請によりボランティア活動は休止、または制限付きでの活動となった。ボランティアセンターでは、このコロナ禍で何ができるのかを検討し「新型コロナウイルス感染症拡大防止応援標語・スローガンコンテスト」と「イルミネーション点灯式」を開催した。広報の成果もあり、コンテストでは学生・教職員からの応募件数が179点も集まった。点灯式では最大限の感染症防止策をとっての開催、学生ボランティアによる募金活動を行い75,895円の寄附が集まり、学生・教職員の一体感が高まった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生、教職員が積極的に社会貢献・地域貢献活動へ参加できるよう支援する

	<p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大の影響で、課外活動等は自粛要請によりボランティア活動は休止、または制限付きでの活動となった。学生へボランティアセンターの存在を認識させると同時に、ボランティア意識を高める第一歩としてセンターへの登録を促す周知を定期的に行っている。</p> <p>・活動状況が Sums-ポイントにより評価されていることを学生へ周知する</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>活動後学生からのサンプポイントの申請もあり、サンプポイントの趣旨や制度は概ね伝わっていることが確認できた。なお、規程に基づき高得点者の表彰も行ったことで、サンプポイント取得にかかる意識の醸成に寄与することができた。</p>
--	--

第2－3期の活動計画の達成状況

重点分野5：教職員の人材確保と育成	
<p>【基本方針:2】 さらなる医療・福祉の総合大学化と魅力づくり</p> <p>【基本方針:4】 次世代を担う教職員の養成とモチベーションの向上</p> <p>【中期計画】2018-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学教員として相応しい人材の確保と育成 2. 自助努力を促しつつFD等による教育能力の向上に努め、次世代を担う教員が育つ環境の整備 3. 大学事務職員としての業務遂行に必要な知識・技能の修得、資質と能力の向上を図る 	
<p>責任者:片山直之(教務・教育改革担当副学長)</p> <p>分担者:出屋敷喜宏(FD推進委員長)、水谷史生(法人事務局長)、村田尚久(大学事務局長)、 矢田智樹(人事・厚生課長)、松永ひとみ(教務課長)</p> <p>事務局:人事・厚生課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 大学教員として大学の目標に貢献できる人材を確保する審査方針・基準の確立	<p>①教員の採用・昇任に関する審査方針・基準を確立する</p> <p>◆学長・副学長会議は、本学の教育理念や教育目標等に則して、本学の教員に求められる基本的要件を明確にし、2020年度末までに、学内に公表提示する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 教員に求める基本的要件については教員評価取扱い基準を公表したうえで、その目標に到達するための各自の目標設定を促した。</p> <p>◆本学教員に求められる基本的要件に鑑み、また本学が置かれた現在の大学実情等に適合した、教員の採用、昇任審査における新たな審査方針・基準の原案を2020年度末までに審議し、全学に提示する。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 教員評価取扱い基準に基づいた評価結果を処遇に反映させることができたが、その処遇の反映のひとつに、教員の昇任に関する評価ポイントの一要素とすることが考えられるため、今後は、その審査基準に盛り込むことを進めていく。</p> <p>◆教員の採用・昇任の新しい審査方針・基準を学内各層の合意を得て2020年度末までにガイドラインを策定する。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 教育重視を実現するため、その目的に則した新規教員の確保が多く、多くの学科でできた。今後は未充足の一部の学科で新規確保を目指す。しかし、ガイドラインの策定は未着手であった。</p> <p>②教員役職者への研修会を2020年度末までに一回企画する。(SD)</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 研修会は未実施であったが、コロナ禍における感染拡大に関わる</p>

	<p>情報の共有化と学生の感染拡大防止対策の在り方について教員役職者で構成する大学協議会において、複数回、長時間に亘り、勉強会と検討会を重ねた。</p>
<p>2. 教員の教育・研究能力の向上推進</p>	<p>①教員の教育力（指導力）向上に向けた方策</p> <p>◆FD推進委員会が教員の資質向上のための研修会を継続的に実施し、向上できる環境を整備し、次世代を担う教員を育てる</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>継続的に研修会や研究会を開催し、特に令和2年度は、Zoom開催のため、欠席者にも終了後URLを伝え、研修率100%にした。</p> <p>FD・SD講演会：令和2年9月1日</p> <p>LMS研究会：令和2年4月22日、9月2日、11月5日、12月17日</p> <p>教育研究会：令和3年3月19日</p> <p>◆FDマニュアル第2号を2020年度内に配布する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>FD推進委員会内に、ワーキンググループを置き、授業運営の工夫や教育改善の取り組み事例等に加え、「SUMS方式学修支援メソッド」および「LMS研究会視聴URL」を掲載した「FDハンドブック2021」を2020年度内に完成し、新規採用教員及び全教員へ配布した。</p>
<p>3. 大学事務職員としての業務遂行に必要な知識・技能の修得、資質と能力の向上を図る</p>	<p>①教職員に対し、教育研究活動や大学行政に関する様々な課題に対応するための学内での研修会を実施する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止せざるを得なかった研修会もあったが、今年度についてはオンラインによる研修会を開催することにより、滞りなく開催することができた。</p> <p>②研修会等の情報収集および検索の強化を図り、学外で開催される研修会等への参加を促進する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>学外の研修会等について情報収集し、周知することができた。</p>

第2－3期の活動計画の達成状況

重点分野6：研究機能の充実	
<p>【基本方針:4】 次世代を担う教職員の養成とモチベーションの向上</p> <p>【基本方針:5】 外部資金の獲得と独創的な研究</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <p>1. 本学独自に指導的立場の教員を育てていくための大学院の充実と研究者の育成を促進する組織体制の構築</p> <p>2. 地域医療に貢献できる独創的な研究を進めるための研究環境の整備充実と外部資金の獲得</p>	
<p>責任者:鈴木宏治(大学院・研究担当副学長/社会連携研究センター長)</p> <p>分担者:葛原茂樹(医療科学研究科長)、飯田靖彦(薬学研究科長)、長谷川誠仁(大学院課長)、真弓昭(研究振興課長)</p> <p>事務局:大学院課、研究振興課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
<p>1. 本学独自に指導的立場の教員を育てていくための大学院の充実と研究者の育成を促進する組織体制の構築</p>	<p>【大学院課】</p> <p>① 本学在学生・卒業生の大学院入学を促進するため、学内広報の強化、及び同窓会と連携した学部卒業生への情報提供強化等を行う。</p> <p>◆ 大学院説明会を実施する。</p> <p>■ 達成(100%) □ ほぼ達成(実行中・80%) □ 遅れ有(50%) □ 大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 薬学科、看護学科においては、学部生や卒業生への大学院入試説明会を開催しており、今後も大学院進学に関する情報提供に積極的に取り組みたい。 県内の病院等へ大学院募集要項等を送付し、大学院進学情報の周知を行った。 本学同窓会会報誌への大学院入試情報の掲載と共に、県薬剤師会、県看護師会等に大学院入試情報を紹介し、卒業生に対する大学院進学情報の周知を行った。 <p>◆ 大学院生の研究活動などを学内広報誌やホームページを強化し、大学院進学を促進する。</p> <p>■ 達成(100%) □ ほぼ達成(実行中・80%) □ 遅れ有(50%) □ 大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>修士論文・博士論文の概要を紀要に掲載し、博士学位論文はホームページに掲載し、大学院での研究成果の公開・広報に努めた。</p> <p>② 研究環境の整備を推進する。</p> <p>◆ 研究環境に関する教員及び学生に調査を実施する。</p> <p>■ 達成(100%) □ ほぼ達成(実行中・80%) □ 遅れ有(50%) □ 大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>医療科学研究科において、前期に研究の進捗状況調査を実施し、後期は研究環境における調査を行った。</p> <p>◆ 研究科共通経費の効率的運用により、研究に必要な高額共通機器購入を推進する。</p>

	<p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 各研究科の共通経費にて、研究に必要な機器を購入した。 医療科学研究科 335.1 万円 薬学研究科 240 万円</p> <p>◆医療科学研究科については、研究科専用の研究室を確保し、共通機器を集約することにより、機器活用と研究推進を図ることを目指して、検討を開始する。また、大学から配分される研究費の増額を要請していく。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2021 年 3 月より、共同研究室問題検討委員会を設置した。共通機器の効率的な活用、研究推進ができるよう、共同研究室の設置を進めて行く。なお、2021 年度から、医療科学研究科の院生 1 人当たりの研究費が増額された。</p> <p>③質の高い研究、世界的にインパクトのある研究が出来る環境づくりをする。</p> <p>◆大学院生に対して、国際学会、国際誌へ発表するために必要な「基本的知識」(国際学会発表や英語論文発表の具体的プロセス等)の講義を行う。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 東京サテライトコースでは、論文作成講習会を行った。</p> <p>◆大学院生による国際学会、国際誌での発表への支援(学会参加費用、投稿料等)を行う。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 院生研究費を学会参加、雑誌投稿料として使用することができる。</p> <p>【研究振興課】</p> <p>④大学全体及び学科毎に教員の研究能力を高める。</p> <p>◆国内外の一流研究者による学術講演会を定期的開催する。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 新型コロナウイルス感染症の影響により講師招聘の目途が立たず開催は見送りとなった。</p> <p>◆学内研究者による学術講演会を定期的開催する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 各学科は、木曜 1 時限等の全学自由時間枠を活用して自身の研究成果等の発表会を開催し、研究力向上のため研鑽を行った。</p> <p>◆海外研究論文や研究情報が容易に入手できるように組織的支援を行う。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 教員の研究遂行に必要な海外論文やデータベースを必要時に入手できるよう図書館の研究支援体制を整えている。</p> <p>◆海外学術雑誌等への論文投稿が容易にできるように組織的支援を</p>
--	--

	<p>行う。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 大学院共通経費から院生全員に、大学からの院生研究費と同額の研究費を補助し、院生研究費を2倍にした。研究費を海外誌投稿用の英文校正、投稿料、国際学会登録料や旅費などに使用できるように規定を改定した。</p> <p>◆本学のホームページ等で教員の研究成果や取組み事例を積極的に広報する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ホームページで教員の研究成果等を公表する旨案内したところ、毎月1～2名のペースで教員から情報提供があり、公表している。</p> <p>◆本学の研究シーズ集等で教員の研究成果や取組み事例を積極的に広報する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 全学シーズ集2021を2021年1月に発行し、三重県、鈴鹿市、鈴鹿商工会議所、金融機関等に送付した。また、同月に開催された鈴鹿市のものづくりフェアにおいて配付した。</p> <p>◆教員の研究面における評価を充実するため、教員評価システム項目の内容を充実させる。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 教員評価システムに関する会議では、結果を出している等研究への取り組みが積極的と判定された教員をプラス評価とするよう検討している。</p>
<p>2. 地域医療に貢献できる独創的な研究を進めるための研究環境の整備充実と外部資金の獲得</p>	<p>【大学院課】</p> <p>①各学科・各研究科・各分野に、独創的な研究対象を設け、共同研究を進める体制を構築</p> <p>◆大学院の研究指導教員を増やし、研究指導力の強化を目指す。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 指導力のある教員の発掘に努め、資格のある教員の推薦や依頼により、大学院兼任教員を増やした。また、医療科学研究科においては、新規の兼任教員から資格審査を厳格にした。</p> <p>②学内に研究指導者が求められない場合のために、他大学の研究に参画する準備を整え、研究に行き詰った場合には、それを打開するようなアドバイスなどをする体制の整備。</p> <p>◆三重大学との連携協定に加え、関連大学や院生所属機関の研究指導者を本学の臨床教授として、委嘱する仕組みを整備する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 薬学研究科では社会人大学院生の所属する病院（三重県立こころの医療センターと総合心療センターひなが）の研究指導者が本学の臨床教授に委嘱されている。医療科学研究科では、細胞検査士資格取得コース大学院生の実習病院の指導者に、本学の臨床准教授を委嘱している。</p>

	<p>【研究振興課】</p> <p>③東洋医学的視点及び薬食同源の観点から本学の独創的研究を進めるための研究環境の充実を図る。</p> <p>◆超高齢社会における疾病予防のための薬食同源・東洋医学的研究拠点の構築について検討する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>西洋医学と東洋医学の知識と技術（代替医療）を融合した統合医療研究の推進を今後の目標に掲げ、検討している。</p> <p>④科研費等の競争的外部資金を獲得するための具体的方策を立てる。</p> <p>◆全教員に科研費研究者番号の登録を要請する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>4月の新任教員就任時と科研費説明会の際に、研究者番号を登録頂くよう教員に案内した。</p> <p>◆全教員、特に若手教員の科研費申請率を70%以上にするため、各学科内で申請の重要性を周知徹底させる。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>研究実施委員会で学科別の現状申請数を確認し、この申請率が全体的に70%以上となるよう各委員から学科へ周知を徹底した。</p> <p>◆採択され易い科研費申請書作成のための支援講習会を開催する。（科研費申請経験者向け講習会の他に、研究FDの一環として、これまで申請をしてこなかった教員向けの講習会も開催する。）</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインでのコンプライアンス研修会を開催し、併せて採択されやすい計画調書の書き方についての研修資料を全教員にメール配信した。</p> <p>◆科研費などの競争的外部資金の申請率及び採択率をあげるために、教員評価システム項目の研究面の評価内容を充実させる。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>教員評価システムに関する会議では、結果を出している等研究への取り組みが積極的と判定された教員をプラス評価とするよう検討している。</p> <p>◆科研費等の競争的研究資金を獲得できるように、学内共同研究を活性化する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2018年度に採択された科研費の挑戦的研究では教員が学科の枠を超えた横断的研究体制ができ上がった。これ以外でも複数のグループで研究を行う体制が進んでいる。</p> <p>◆地域企業等との共同研究を推進するため、教員の研究活動を大学のホームページ、研究シーズ集等で積極的に学外に紹介する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p>
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の研究活動について、ホームページで教員の研究成果等を公表する旨案内したところ、毎月1～2名のペースで教員から情報提供があり、公表している。 ・全学シーズ集2021を2021年1月に発行し、三重県、鈴鹿市、鈴鹿商工会議所、金融機関等に送付した。また、同月に開催された鈴鹿市のものづくりフェアにおいて配付した。 <p>◆研究振興財団等の外部機関による研究奨励金公募状況を定期的に学内教員に発信・紹介する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 研究振興財団等の外部機関から公募案内があれば、都度全教員にメール送信、または掲示板に掲示をすることで周知した。</p> <p>⑤研究危機管理体制の充実に向けて、研究倫理の確立とその厳正な運用の実施を図る。</p> <p>◆研究関連学内規程及び危機管理マニュアルを整備する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 研究倫理規程、危機管理マニュアルを作成中である。</p> <p>◆研究倫理・研究不正防止に関する講習会への教員の参加ならびにeラーニングによる研究倫理教育を実施する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 毎年度科研費申請の時期に、研究倫理・研究不正防止に関する講習会を開催している。またeラーニング研究倫理教育への受講も徹底している。</p> <p>⑥学内の共通機器に関する情報を整備し、教員間で機器を共有することで、共同研究の推進を図る。</p> <p>◆各学科の機器に関する情報収集を検討する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 各学科の使用機器の現状に関する情報を収集している。</p>
--	---

第2－3期の活動計画の達成状況

重点分野7：地域・産学官連携推進	
<p>【基本方針:2】 さらなる医療・福祉の総合大学化と魅力づくり</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <p>1. 社会に対する情報発信のための地域・産学官連携研究活動の推進 2. 学内研究の活性化に向けた地域・産学官連携研究活動の強化</p>	
<p>責任者:鈴木宏治(大学院・研究担当副学長/社会連携研究センター長) 分担者:真弓昭(研究振興課長) 事務局:研究振興課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 社会に対する情報発信のための地域・産学官連携研究活動の推進	<p>①国・県・市町・企業・地域団体等が行う産学官連携活動に参加し、学内の研究活動情報を積極的に発信する。</p> <p>◆国立研究開発法人・科学技術振興機構が主催するイノベーション・ジャパン等に積極的に参加し、学内の研究成果を発信する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 イノベーション・ジャパン2020(オンライン)には2名の教員(臨床工学科、医療健康データサイエンス学科)が出展した。</p> <p>◆みえメディカルバレー構想活動に参加し、学内の研究成果を積極的に発信する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 みえメディカルバレー企画推進会議の会長として、本学研究担当副学長が参加し、広報活動を推進した。</p> <p>◆みえライフイノベーションプロジェクト鈴鹿の活動に参加し、学内の研究成果を積極的に発信する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 みえライフイノベーションプロジェクト鈴鹿関連会議に本学研究担当副学長と研究振興課長が参加し、研究成果を発信した。</p> <p>◆三重県産業支援センター活動に参加し、学内の研究成果を積極的に発信する</p>

	<p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 本学研究担当副学長が三重県産業支援センター評議員として評議員会に参加し、情報交換を行った。</p> <p>◆SUZUKA 産学官交流会活動に参加し、学内の研究成果を積極的に発信する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 SUZUKA 産学官交流会に、本学研究担当副学長が理事、研究振興課長が事務局役員として、その運営に携わった。</p> <p>◆鈴鹿病態薬学研究会を継続して開催し、学内の研究成果を積極的に発信する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 鈴鹿病態薬学研究会は毎年開催しており、昨年度は11月に開催した。</p> <p>◆鈴鹿医療科学大学紀要に学内の研究成果を積極的に発信する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 2021年1月に刊行した紀要第27号(2020)には教員の研究成果を掲載し、県内の大学や図書館へ配布している。</p> <p>②学内研究活動の成果を積極的に発信する。</p> <p>◆鈴鹿医療科学大学研究シーズ集2021の刊行</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 研究シーズ集2021を刊行した。</p> <p>◆鈴鹿医療科学大学紀要第27号(2020)の刊行</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 紀要第27号(2020)を刊行した。</p> <p>◆研究シーズ集・紀要の地域・産学官への積極的配布</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 研究シーズ集は県内の金融機関、商工会議所等へ、紀要は県内図書館へ配布している。</p> <p>◆入試広報活動における鈴鹿医療科学大学・紀要の活用</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 薬学部では県内外の高校訪問時に紀要を持参し、進学担当教員に手渡し紹介している。一部の他学部では未達成である。</p>
--	--

<p>2. 学内研究の活性化に向けた地域・産学官連携研究活動の強化</p>	<p>①国・県・市町・企業・地域団体等が行う産学官連携研究支援活動への参加を積極的に推進する。</p> <p>◆産学官共同研究等の支援事業に関する情報収集と学内への広報を積極的に行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 産学官共同研究等の支援事業に関する情報を収集し、全教員にメールまたは掲示で周知している。</p> <p>◆各種研究振興財団等の研究支援事業に関する情報収集と学内への広報を積極的に行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 各種研究振興財団等の研究支援事業に関する情報を収集し、全教員にメールまたは掲示で周知している。</p> <p>◆三重大学、鈴鹿高専等との連携による共同研究や研究会への参加を積極的に促す。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 本学教員が三重大学並びに鈴鹿高専の教員と共同研究を行っている。</p> <p>◆SUMS-NITS 医工連携研究会を継続し開催する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 SUMS-NITS 医工連携研究会は毎年2回開催しており、昨年度は9月と2月に開催した。</p> <p>◆社会連携研究センター運営委員会を年間3回以上開催する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 社会連携研究センター運営委員会を2回開催した。</p> <p>◆学内の産学官連携研究の活性化のため、本学HPの「研究・社会貢献」サイト内に「教員の研究活動」項目を新設し、既に公開されている採択科研究費の研究課題や最近の研究論文、研究成果等を本人の承諾のもと紹介する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 本学HPの「研究・社会貢献」サイト内に「教員の研究活動」項目を新設するよう検討しており、現在はWhat's Newに情報を掲載している。</p> <p>◆学内の産学官連携研究の活性化のため、本学HPの「研究・社会貢献」サイト内の「社会連携研究センター」の中に様々な産学官連携研究活動の取</p>
---------------------------------------	---

	<p>り組みと成果等を掲載する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>様々な産学官連携研究活動の取り組みと成果等を掲載している。</p> <p>◆本学HPの「研究・社会貢献」サイトの掲載内容について、産学連携研究活動がより効果的に進展するように検討する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>産学連携活動の内容充実に向けて、教員の活動内容を掲載する準備をしている。</p> <p>◆鈴鹿医療科学大学・研究シーズ集について、学内研究の活性化により効果的な掲載内容や掲載方法を検討する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>研究シーズ集は、冊子体からWEB版に変更し公開するよう検討を進めている。</p>
--	--

第2－3期の活動計画の達成状況

重点分野 8：国際交流の推進	
<p>【基本方針:2】 さらなる医療・福祉の総合大学化と魅力づくり</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <p>1. グローバル化に向けた国際交流のための学内体制の整備と支援体制づくり</p> <p>2. 各学科単位での学生の海外体験の機会の拡充、教員の国際対応力と国際的な発信力の強化</p> <p>3. 欧米とアジア地域における保健・医療・福祉領域の学術・教育の交流拠点づくりの促進</p>	
<p>責任者: 葛原茂樹 (医療科学研究科長)</p> <p>分担者: 高木久代 (国際戦略担当副学長)、真弓昭 (研究振興課長)</p> <p>事務局: 研究振興課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. グローバル化に向けた国際交流のための学内体制の整備と支援体制づくり	<p>①学内国際交流拠点として必須である国際交流室（仮称）設置を、改めて大学に提案する。</p> <p>◆2021年3月までに国際交流室設置の目途をつける。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 国際交流室設置は、法人と理事会レベルの事業であるので、委員会活動では限界があり、現時点では実現していない。今後も委員会としてはその実現に取り組んでいく。なお、大学の方針として、大学院や学部にも主としてアジアからの留学生を本格的に受け入れる方向が示されているので、それが具体化すれば、連動して国際交流部門の設置が実現すると思われる。</p> <p>②学生・教職員の国際交流支援体制づくり。渡航手続きマニュアル作り、安全情報、予防接種などの情報提供、実施医療施設調査などを整備する。</p> <p>◆2021年3月までに、支援体制の中で実現可能なものについて、マニュアル化する（渡航手続き、診断書作成や予防接種実施施設など）。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 学生の海外渡航等の各種情報（渡航手続、安全情報など）を大学のホームページに公表した。</p> <p>◆学生の海外研修に対して、大学に経済的支援を要請する。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 新型コロナウイルス感染症の影響により海外研修等の交流は世界的にも自粛状態となっていることから、今後回復の時期を見ながら大学に経済的支援を要請していきたい。</p> <p>③学内の各レベル（大学、学部、学科、個人）で実施されている国際協力活動（学術、教育、その他）の現状調査の実施と、継続的あるいは萌芽的に進行中のものがあれば、将来の発展性を含め調査を実施する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p>

	<p>毎回、委員会で各学科の取り組みと今後の計画について報告を実施し、経験や情報を共有し、支援し合っている。</p> <p>④国際交流活動の参考にするために、他大学の組織や活動を調査する。</p> <p>◆学生の海外研修実施校の中で大学間協定締結などによる定期的交流や単位互換実施の状況を調査する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>国際交流委員会が設置された時点で実施した。それ以降に、学内の状況に大きな変化はないので実施していないが、国際交流室設置などに具体的な進展があった場合には、必要に応じて再度実施し、迅速に対応する。</p>
<p>2. 各学科単位での学生の海外体験の機会の拡充、教員の国際対応力と国際的な発信力の強化</p>	<p>①国際対応力実践の場として、学生の海外研修を実施している鍼灸サイエンス、医用情報工、看護の3学科の活動を継続的なものにする。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により海外研修等の交流は世界的にも自粛状態となっていることから、今後回復の時期を見ながら進めていきたい。</p> <p>その中で、看護学科では、海外研修を予定していた米国 Biola 大学の教員によるオンライン授業が Zoom を用いて実施された。更に、他の正規授業の一環として、英国で活躍している日本人看護師が Zoom を通して、英国医療を紹介する講師を務めるなど、新しい授業形式の導入が試みられている。このように、オンラインでの海外研究者の本学への招聘講演や学部での特別講義など意識的な取り組みが増えてきたのは、大きな前進である。</p> <p>②未実施の学科においても、教員と学生の一定数が海外体験することを目標とする。</p> <p>◆2022年3月までに鍼灸サイエンス学科、看護学科以外の学科において、教員と学生の一定数が海外体験をする。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により海外研修等の交流は世界的にも自粛状態となっていることから、今後回復の時期を見ながら進めていきたい。</p> <p>◆医用情報工学科は、韓国の大学との交流が途切れないような方策を検討し、2022年3月までに学生海外体験の実現を図る。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により海外研修等の交流は世界的にも自粛状態となっていることから、今後回復の時期を見ながら進めていきたい。</p>
<p>3. 欧米とアジア地域における保健・医療・福祉領域の学術・教育の交流拠点づくりの促進</p>	<p>①三重県国際医療技術連携体制(M-MUSCLE)と連携し、国際交流を推進する。</p> <p>◆三重県国際医療技術連携体制(M-MUSCLE)の定期会議に参加して、情報収集をするとともに、募集があれば、英国との看護師・看護学生研修プログラムに本学からの海外研修参加者を確保する。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>第1回に参加して以降、新しい応募者はいないので、引き続き学科内の若手教員を対象に応募を推奨し、学科として支援し参加できる体制を構築するように要請してきた。なお、本事業は令和2年度も計画</p>

	<p>されていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により海外研修等の交流が困難になったこと、研修先の英国ロイヤルフリーホスピタルの国際開発部門が閉鎖されたことから実施できず、本事業は令和元年度をもって終了した。</p> <p>②本学活動として、鍼灸サイエンス学科（天津中医薬大学など）、医用情報工学科（韓国ソウル市漢陽大校）、看護学科（米国ロサンゼルス Biola 大学）の交流を継続させ、協定に基づく大学レベルの交流にレベルアップしていく。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、上記学科の学生研修も中止せざるを得なくなった。同感染症が終息した時点で交流が再開できるよう準備を進めていく。</p> <p>その中でオンラインでの会議や講演等が増加しており、上記大学との交流の継続に努めている。</p> <p>③薬学研究科ではコンケン大学（タイ）との協定に基づく学術交流を推進する。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、同大学教員との研打ち合わせはオンラインで行われた。現在タイ肝吸虫による胆管がん発生の機序に関する共同研究が続いている。</p>
--	---

第2－3期の活動計画の達成状況

重点分野9：大学活性化のための継続可能な組織体制改革	
<p>【基本方針:4】 次世代を担う教職員の養成とモチベーションの向上</p> <p>【基本方針:6】 公益性と収益性の両立</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学長のリーダーシップのもとで、組織目標達成のためのPDCAサイクルの質の向上 2. 現場の職員の知恵を生かした、組織・業務プロセスの見直しによる効率化と質の向上 3. 教職員評価制度の適切な運用による教職員のモチベーション向上 4. 大学の危機全般に対して、教職員が的確に判断し円滑に対応できる危機管理体制の整備 	
<p>責任者：豊田長康（学長） 分担者：水谷史生（法人事務局長）、村田尚久（大学事務局長）、勝田能成（学生課長） 事務局：学生課、管財課、庶務課、人事・厚生課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画の項目	活動計画内容
1.学長のリーダーシップのもとで、組織目標達成のためのPDCAサイクルの質の向上	<p>・これまでに確立されたPDCAサイクルをさらに向上させるため、全学の目標である「社会に必要とされる学生を育てる。」を具現化するための具体的な到達目標を定め、そのために必要な課題の抽出と実行計画をたてて実行する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 定期的実施している学長・副学長会議にて学長から指針を具体的に示すことで、各担当領域への活動をコントロールし、PDCAの向上に努めているが、実行結果の検証、分析については検討中である。</p>
2.現場の職員の知恵を生かした、組織・業務プロセスの見直しによる効率化と質の向上	<p>・大学の人事活性化及び業務効率向上を図るため、職員の再配置を実行する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 事務職員の新規採用も含め、人事活性化及び業務効率を向上するための職員の再配置を実行した。</p>
3.教職員評価制度の適切な運用による教職員のモチベーション向上	<p>・全学の目標から各学部、学科・専攻の目標を設定し、それを受けて教員個人の目標にブレイクダウンさせた活動目標と計画を設定させ、その実行結果を評価に反映させていく。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 教員評価システムにて教員個人の活動目標と計画を設定させ、実行結果を所属長が評価し処遇に反映した。適切な評価ができるための評価制度を今後も検討していく。</p>
4.大学の危機全般に対して、教職員が的確に判断し円滑に対応できる危機管理体制の整備	<p>・6部門の各プロジェクトチーム内に於いて、様々な危機事象への対応等について地域の特性や本学の実情に応じた危機管理マニュアルを作成し、学内外に公表する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p>

	<p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>令和2年度より、既存の5部門に加え新たに感染危機管理部門を設置し、刻々と変化する新型コロナウイルス感染症拡大に対する予防策の策定や学生への注意喚起を随時行った。また、各部門で想定される事象ごとの対応マニュアルやガイドラインの作成も行い、関係者が一堂に会する「防災・危機管理対策委員会」において、各部門の進捗状況や今後の取り組み等についての報告を行った。なお、同委員会では、学長のリーダーシップの下、災害時における事業継続計画(BCP)を含めた諸規程・ガイドラインの充実を引き続き進めていくことが話し合われた。</p>
--	--

第2－3期の活動計画の達成状況

重点分野 10：財政基盤の充実	
<p>【基本方針:6】 公益性と収益性の両立</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 財源確保策の実践による安定的な財政基盤の構築 2. 補助金制度と大学のシーズを活用した外部資金の獲得推進 3. 効果的な経費削減の推進 	
<p>責任者:水谷史生（法人事務局長） 分担者:宮崎和裕（管財課長）、岩田善光（経理課長）、真弓昭（研究振興課長） 経費削減推進委員会 事務局:経理課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 財源確保策の実践による安定的な財政基盤の構築	<p>新学科・新専攻の設置及び定員数の拡大、学納金の改定が財政に及ぼす影響の調査</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 新学科等の設置や定員数拡大により学納金がどの程度増加するかを予測した結果、5年後（2025年）には、学納金収入が12%ほど増加し、新学科等の設置や学納金の改定が収入規模の拡大（財政基盤の構築）に大きく寄与することがわかった。この資料は、今後の財務計画や財務基盤の構築を検討する上で活用する。</p>
2. 補助金制度と大学のシーズを活用した外部資金の獲得推進	<p>①教育研究設備・装置等に関する補助金制度の積極的な活用を促進する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 令和2年度私立学校情報機器整備費（遠隔授業活用推進事業）補助金採用。</p> <p>②教員等の研究活動に資するための財政基盤として、大学の研究シーズを基にした受託・共同研究費や寄付金を獲得する。</p> <p>◆研究シーズ集を県内の金融機関、商工会議所、三重県産業支援センター等に配布する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 研究シーズ集2020は2020年1月に刊行、県内の金融機関、商工会議所、三重県産業支援センターに配布した。</p> <p>◆受託・共同研究費や寄付金を獲得し、研究活動を活発化させる。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 2020年度は受託研究6件（6,089千円）、共同研究9件（18,746千円）、寄附金11件（17,387千円）で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が懸念されたが、結果は2019年度並みに一定数獲得した。</p>

<p>3. 効果的な経費削減の推進</p>	<p>経費削減活動の方策を検討、実行する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 電力供給会社の契約期間終了に伴う、次年度以降の契約会社の選定により、電気料金の大幅な削減を見込める状況とした。</p>
-----------------------	--

第2－3期の活動計画の達成状況

重点分野 11：4つのポリシーの実質化	
<p>【基本方針:1】 満足度の高い教育の推進 【中期計画】2018年度-2020年度 1. 4つのポリシーの策定と運用についてガイドラインに則したPDCAサイクルを実行</p>	
<p>責任者：豊田長康 分担者：教育改革委員会、教育質保証委員会 事務局：教務課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
<p>1. 4つのポリシーの策定と運用についてガイドラインに則したPDCAサイクルを実行</p>	<p>① 4つのポリシーの運用に関するPDCAサイクルの仕組みを実行 ◆ガイダンス等で、教育目標を踏まえたディプロマポリシーを学生に周知する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 教育目標やディプロマポリシーに基づいて作成されたカリキュラムマップをガイダンス等で配布し説明し、学生個々に確認している。</p> <p>◆ガイダンス等で、カリキュラムポリシーを学生に周知し、ディプロマポリシーとの一貫性を確認し、教育課程が体系的に編成されていることを学生に説明する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 9月のガイダンス時には、学生要覧とカリキュラムマップを基に説明し、学生自身は修得した科目に評価内容の種類別に色を塗り、一貫性を認識し、その資料を基に担任と個別面談する仕組みを実施した。</p> <p>◆教育質保証委員会でアドミッション・ポリシーと教育課程との整合性を点検し、PDCAサイクルを回す。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 教育質保証委員会の役割の一つとしており、教育改革委員会へ報告することとしている。</p> <p>②ディプロマポリシーの達成度をチェックする仕組みを構築する。 ◆ディプロマポリシーの達成度をチェックするために、学生の学修成果に関するアンケートを卒業前の4年生に対して実施し、IR推進室で集計し、確認する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 卒業前の4年生に対して、達成度調査を実施し、IR推進室で集計結果をグラフ化したものを本学のホームページに公表している。 例年、約9割の回答率の中、8割以上が達成感をもって卒業している結果となっている。 ・回答率 2019年度:89.7% 2020年度:88.2% ・当てはまる・ほぼ当てはまる率 2019年:84.7% 2020年:86.8%</p>

	<p>◆集計結果を各学科へ報告し、教育質保証委員会で改善に活用する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 教務委員会で集計結果を報告し、各学科の教育質保証委員会の中でカリキュラム全体および科目の内容・開講時期などを検討し、改善案を検討している。</p> <p>③アセスメントポリシーについて、教育質保証委員会で確認し、学科内において必要な修正を行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 教育質保証委員会委員会の役割の一つとしており、教育改革委員会へ報告した結果、指示があり、更なる対応を学科の教育質保証委員会は講じた。その結果を教育改革委員会は年度末に確認した。</p> <p>④教育質保証委員会で検討し、実施した内容を自己評価委員会で報告し、確認する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 教育重視を大前提に全学の仕組みとして「トコトンできるまで教育」を掲げ、その具体化を図るために各学科に「教育質保証委員会」を設置し、活動の旗振りを学長自らが行い、全学部全学科を大きく動かし、活性化している。また、その活動の自己点検・評価を促している。</p>
--	---